



古今事考

四

^ 13  
2757  
4











Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style.

らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに

らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに  
らむらむとてしるる。あつたはまのしるしに

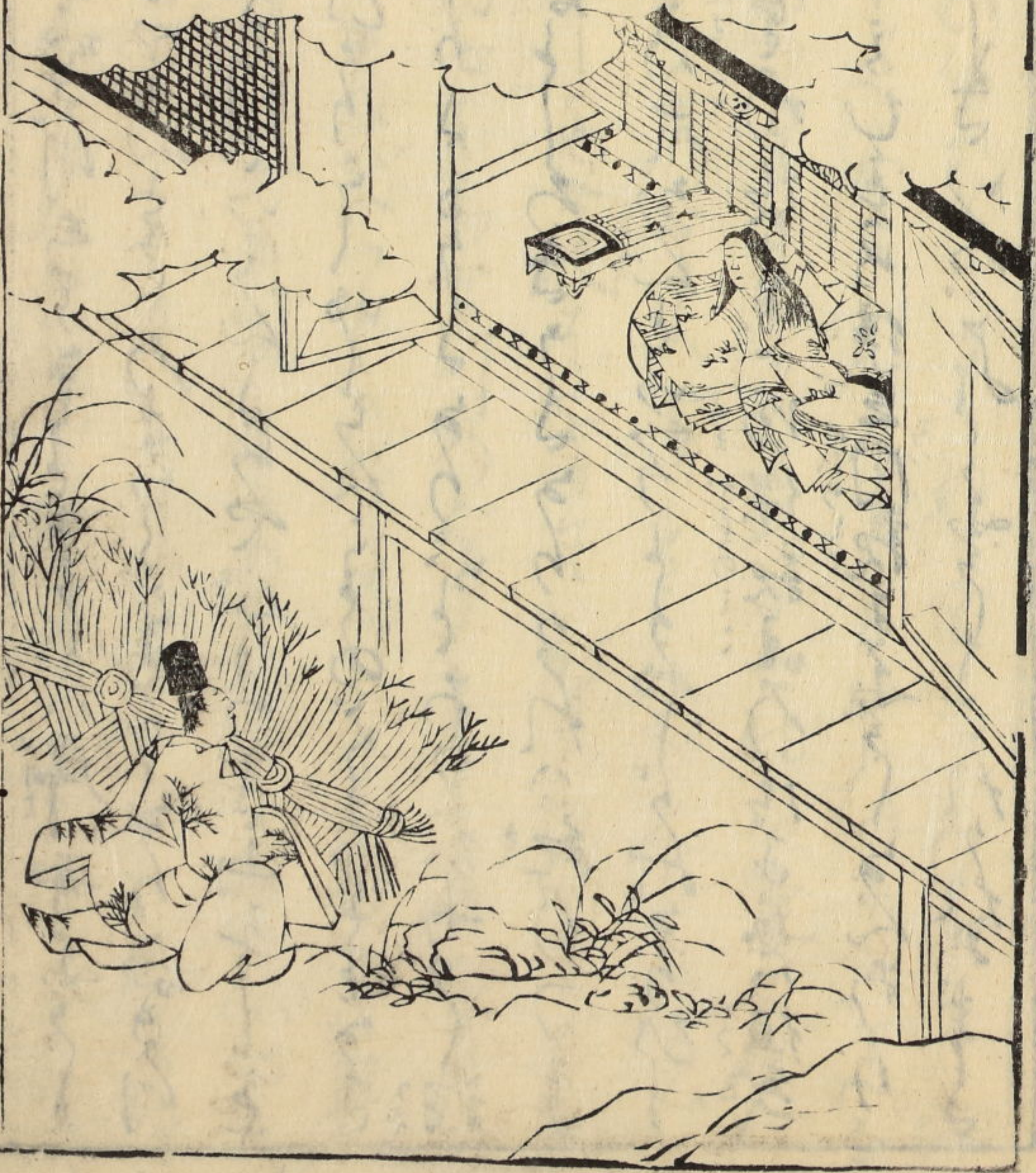
礼儀をうしむる事。人の心。をさへ。と。あはれ。よ。會をす。  
む。と。く。い。勝を。う。く。け。あ。け。つ。給。け。一。層を。  
と。の。人。を。う。い。せ。し。て。あ。り。し。り。あ。ら。ま。い。り。ま。や。  
あ。ま。の。清。き。く。ま。や。が。あ。ん。の。淨。飯。ま。り。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。

あ。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。  
く。ま。の。清。き。く。ま。を。自。ら。ま。い。り。ま。い。り。ま。あ。ら。ま。い。り。ま。



女中  
 十六  
 ちやうどわらわしきかへりてなほまはるるは  
 あやふくはなほのうらみこころをいふに  
 すまやうとくはなほのうらみこころをいふに  
 かへりてなほのうらみこころをいふに  
 しなほのうらみこころをいふに  
 うけなほのうらみこころをいふに  
 りしなほのうらみこころをいふに  
 何れもなほのうらみこころをいふに  
 よもなほのうらみこころをいふに  
 やあなほのうらみこころをいふに

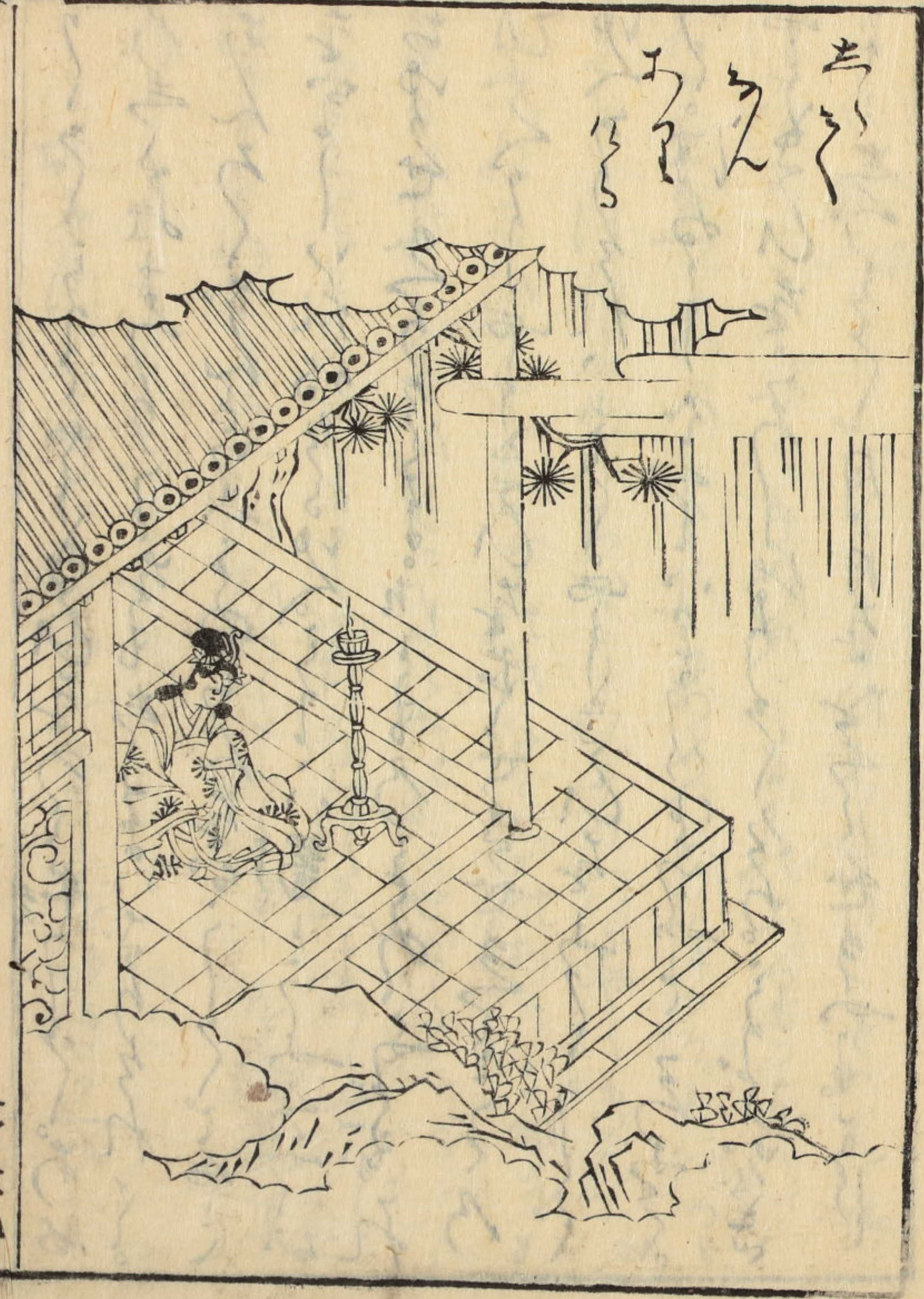
ちやうど  
 わらわし  
 きかへり  
 てなほ  
 まはるる  
 はあや  
 ふくは  
 なほの  
 うらみ  
 こころ  
 をいふ  
 に





これまのあはれはなるといふもあはれなるらん  
 けしきもゆるし  
ぞちかひなく 文集云。蕭々暗雨打窓をとりし本を影中  
 へいへいゆきあはれなるらん  
 十のうらみあはれなるらん  
 うれしと湯人乃事し入るらん  
 トクもいふも乃治すれはあはれなるらん  
 一六十年がかりにわたりてあはれなるらん  
 すべしとむしあはれなるらん  
 一月をわたりてあはれなるらん

あはれ  
 けしき  
 けしき

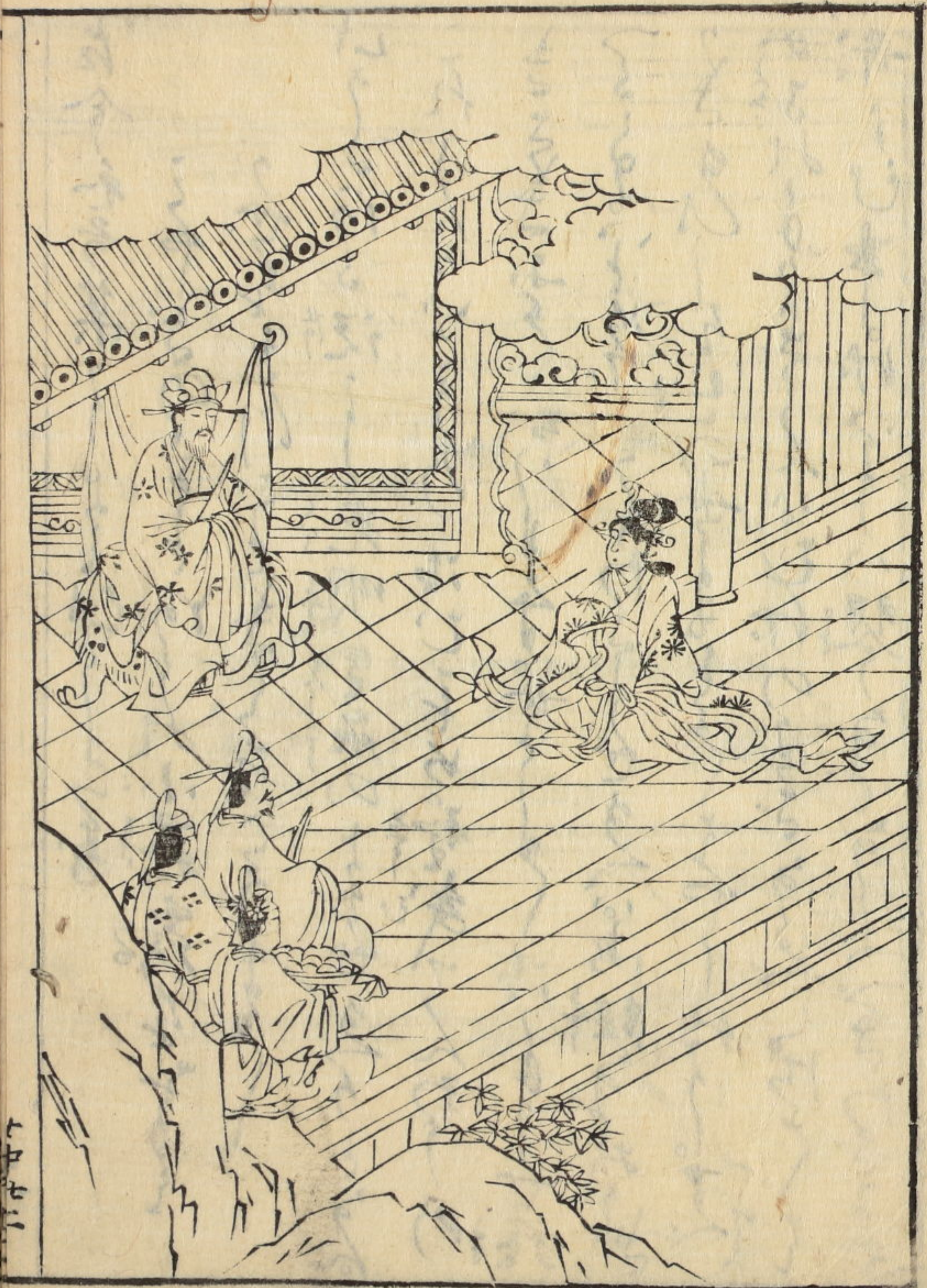


りくしんていせうかきなりぬりしむくあめ  
乃きみまうりもなまきまらりたれど。  
あんろくじんらふらんをがしんていせう  
なまらりたれど。蜀しやくとらふくあめ  
ちゆせきりらるる。ちゆせきりらるる  
ひくしんていせうかきなりぬりしむく  
ゆかりたれ。ちゆせきりらるる。ちゆ  
つはぬらるる。ちゆせきりらるる。  
やまらりたれ。ちゆせきりらるる。  
一、ちゆせきりらるる。ちゆせきりらるる。

とくしんていせうかきなりぬりしむくあめ  
乃きみまうりもなまきまらりたれど。  
あんろくじんらふらんをがしんていせう  
なまらりたれど。蜀しやくとらふくあめ  
ちゆせきりらるる。ちゆせきりらるる  
ひくしんていせうかきなりぬりしむく  
ゆかりたれ。ちゆせきりらるる。ちゆ  
つはぬらるる。ちゆせきりらるる。  
やまらりたれ。ちゆせきりらるる。  
一、ちゆせきりらるる。ちゆせきりらるる。

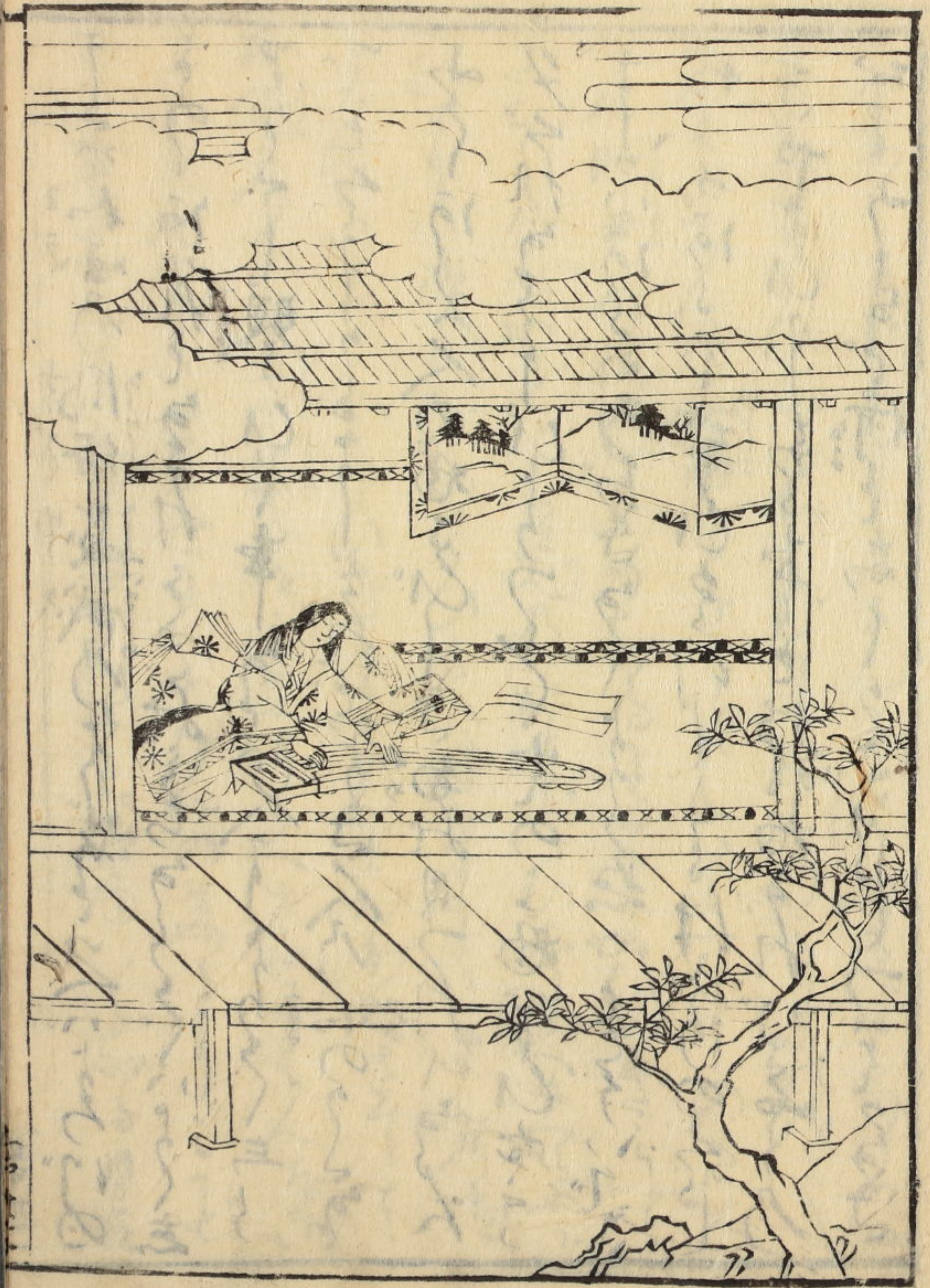
ちゆせきりらるる。ちゆせきりらるる。





といふことなき人など。さういふにたまり  
 多う。こゝろは女がまゝ、のんざゝにたまるま  
 へり。さういふことなき人など。さういふに  
 たりとまゝにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ  
 ういふにたまり、さういふにたまり、さ

古今和歌集よりよきひよららき  
 ともぎののともはれ小萩露を  
 づきをかりごとまをこころまき  
 けうこのはる説り。光明皇女のよきせまりとら  
 くれんりのこう乃 治むとめ。聖まてんわう乃  
 ちまかひまきちりまき。女とまき清くせむ  
 くるもとのちりまき。せまき清くせむ  
 くるもひのちりまき。せまき清くせむ  
 女子れまき。せまき清くせむ  
 舞のまき。せまき清くせむ



この世に於ては、俗に云ふ如く、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。  
此の世に於ては、人の心は、  
水に波を起す如く、一たび起ると、  
止むことなし。此の世に於ては、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。  
此の世に於ては、人の心は、  
水に波を起す如く、一たび起ると、  
止むことなし。此の世に於ては、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。

此の世に於ては、人の心は、  
水に波を起す如く、一たび起ると、  
止むことなし。此の世に於ては、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。  
此の世に於ては、人の心は、  
水に波を起す如く、一たび起ると、  
止むことなし。此の世に於ては、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。  
此の世に於ては、人の心は、  
水に波を起す如く、一たび起ると、  
止むことなし。此の世に於ては、  
人の心は、水に波を起す如く、  
一たび起ると、止むことなし。











Handwritten text in vertical columns, likely a list or account. The text is written in a cursive style. The right edge of the page shows the text '女中十八'.

